

## (別紙12)

## 大学「地（知）の拠点整備事業」ホームページ掲載用原稿記入フォーム

※以下の項目を参考の上で作成をしてください（様式は自由です）。

実習企業・機関	真室川町役場 交流課
実習期間	平成 30 年 2 月 16 日 ~ 平成 30 年 2 月 22 日
学生氏名	荒川大夢
実習プログラム	イベントの準備・運営 イベントの片付け イベントの写真セレクト 参加者の集計・売り上げ計算・データ打ち込み・書類作成等の雑務 逸品展実行委員会「決算会議」への参加
学び・気づき	各課によって勿論業務内容は異なり、更に同じ課の中でも細分化して1人1人やるべきことを明確化して業務を行なっていることが分かった。また、こまめに連絡を取り合い意見交換が行われ、生じた課題や問題に対して迅速に対応していることも分かった。業務が煩雑になると連絡漏れなどが出ることもあるので、自ら確認する姿勢で積極的にコミュニケーションを取ることができたのは重要になってくると実感した。イベントの決算会議に参加させていただいて、昨年の仙台でのイベントを踏まえ、今年の方針を考えると行った内容であった。参加している方々のそれぞれの想いと、町としての狙いや考えとの意見のすり合わせが難しくイベントを行う上でとても重要なことであると学んだ。
今後に向けた抱負	今回インターンシップをさせて頂いて、やりたいと思っていたイベントの運営する側のお手伝いをする中で初めて見えてきたことがたくさんあった。今まで参加者の目線からしか見ていなかったことを、運営する側の目線から見ることによってイベントの意味や狙い・想いがより分かったように感じた。臨機応変な行動が常に求められ、状況把握・判断能力が必要不可欠で、常にアンテナを張って行動することの大変さを痛感した実習となった。参加者の方からすればスタッフはどの人も同じに見え、インターンシップ実習生だからというような甘い考えは通用しない。把握しきれていないことがある中スタッフとしてもっと役に立つにはどうすれば良いか、常に意識し周りを見て行動することが大切だったのだと感じる。今後の学生生活の質の向上・社会人になるための最低限な姿勢として、自覚の持ち方が非常に重要だと感じたので授業1つ、アルバイト1つに対しても意識して行動・自覚して行動をしていこうと思う。

インターンシップをして気づいた、実習先の魅力	ホワイトアスロンワールドカップというイベントの準備・運営のお手伝いを主にさせていただいて、業務の随所で職員の方々の仲が良いと感じることが多くあった。また、1人1人が前向きな姿勢で業務をしており、これにより効率的に運営が行えているのだと感じた。短い期間であったが様々な方と多くのコミュニケーションを取り、私自身このような職場で働きたいと強く思った。更に、真室川町のためになることをという想いで働かされている方がほとんどで、町民の方の意見をしっかりと聞き、町の活性化につながるようなイベントを企画運営しているという点も魅力だと感じた。
写真 (1~3点)	真室川町のキャラクター:梅子 